

平成26年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「軽井沢町を一つに結ぶ、新たな秋の風物詩としての地域全域交流、集客及び販売促進事業」軽井沢ハロウィン」
事業主体 (連絡先)	軽井沢銀座商店会 (軽井沢町大字軽井沢 601-1 電話 0267-41-2501 代表佐藤俊幸)
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	4,122,040円 (うち支援金: 3,000,000円)

事業内容

●名称：軽井沢ハロウィン2014

●企画趣旨：

何時どの季節にでも、軽井沢には“特別”がある。

夏だけじゃない軽井沢。いつでも軽井沢には他では味わえない、心地いい風物詩がある。

そんな思いを旧軽井沢銀座・軽井沢全体で共有したいという願いから

統一感を持って、かつ華やかに彩る装飾性、来場者回遊型の施策で盛り上がりをも町全体で体感出来る、季節のコンテンツ第一弾として、「ハロウィンイベント」を実施した。

●期間：2014年 10月18日～10月31日 (ハロウィンウィーク期間セール)

10月25日 (土曜)：ハロウィンウォーク実施 (イベント)

(12:30～17:00 実施)

●場所：旧軽井沢銀座通り全域～新軽井沢エリア～軽井沢プリンスショッピングプラザ～軽井沢タリアセン～星野温泉エリア

●内容：期間中、各開催エリアのお店・観光施設をハロウィン仕様の装飾を施し、「ジャックランタンづくり」をはじめ各種イベントを開催する。参加者は仮装してイベントに参加しながら、まちを練り歩くスタンプラリー (お菓子をもらおうラリー) に参加。なお各エリア間の移動には、特別仕様のハロウィンバスを巡回運行した。

●主催：軽井沢ハロウィン実行委員会

●後援：軽井沢町、軽井沢町観光協会、軽井沢町商工会、軽井沢町教育委員会、軽井沢町青年会議所、信濃毎日新聞社、テレビ信州

軽井沢新聞社、軽井沢ニュース舎、FM軽井沢、

●協力：軽井沢交通バス、軽井沢ぐるっとバル実行委員会、ホテル音羽ノ森、軽井沢・プリンス ショッピングプラザ、軽井沢郵便局、軽井沢絵本の森美術館、株式会社CAN、星野エリア、軽井沢ニューアートミュージアム、つるや旅館、軽井沢タリアセン、モトテカコーヒー、F,O,Gダイナー、ケーキブティックピーターズ、サトウシューズスタジオ、八ヶ岳中央農業実践大学校

●協賛：協賛店舗各社 (82店舗+装飾のみ10店舗)

●参加者：218名 (109名のユニットを2組)

(参加費1000円：ゼッケン、参加者用バッグ、マップなどの費用)

●運営主幹：チャーチストリート軽井沢・軽井沢銀座商店会

●連携企画：軽井沢タリアセン・ハロウィン、はぶかるテラス・ハロウィン

ぐるっとバル軽井沢、軽井沢リゾートマラソン、軽井沢もみじ祭り、などの各施策と連動した。

付帯企画

- 旧軽井沢ハロウィン仮装写真コンテスト (主催 軽井沢銀座商店会)
- 手作りジャックランタン教室 (主催: チャーチストリート軽井沢) を開催

○モデル的で発展性のある事業である理由

本事業の仕組みの基本は、参加者及び参加店舗が個別に運営費を負担するというもので、事業の規模が大きくなってもコスト的な破綻がなく、無理なく継続できることにあります。これにより、計画的で安定した事業の拡大ができるため、地方の地域活性の方法のモデルとして有効であると考えます。



【仮装写真コンテストの様子】



【銀座通り写真撮影ポイントにて】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

【目標・ねらい】

- ① ハロウィンウォーク参加者の増加
- ② 軽井沢ハロウィン参加店舗の増加

- ・ハロウィンウォーク参加者 増加 : 目標年度 H26 対 25 比 300%増
実績) 対 25 比 363%増 (60⇒218名)
- ・参加店舗の増加: 目標年度 H26 対 25 比 200%増
実績) 対 25 比 230%増 (40⇒92店)

※自己評価 【B】

【理由】

参加店舗の増加、参加者(家族)の増加については、目標は達成できたがそれに伴う運営業務の負荷も増大し、バスの運行計画や誘導のオペレーションに課題が残った。

バスに関しては当初5台を運行予定だったが、行楽シーズンの繁忙期と重なり4台しか調達できなかった。それに伴い参加者誘導の効率が低下し、結果として十分なホスピタリティを提供できなかったなどが反省点として上がった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

・今後10年間で徐々に規模を拡大し、秋の軽井沢の風物詩として、またイベントツーリズムの核になる存在にまで本催事を成長させたい。今回得られた、各域間の連携はその礎となる大きな財産であり、2015の開催に向けて早い時期から実行委員会を立ち上げ、ノウハウの共有とスキルアップを行っていく。

今回参加いただいた方々、そして店舗はほぼ次年度も参加いただける見込みで、事業成立の基盤はある程度固まったが、今後は県外からの参加者の獲得とより広域への認知拡大が重要な課題となると思われる。また、参加者の満足度向上にも、関係各位の協力を賜り、研鑽を積んでいきたい。

また、軽井沢ハロウィン単なる動員催事ではなく「家族間の交流」「地域間の交流」を深めるキッカケとして機能し、何よりも軽井沢の街が「訪れる人、そして住民に優しい町」としてイメージされるような広報を充実させていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

この様式は電子メールで sakuchi-kikaku@pref.nagano.lg.jp へ送信してください。